




**OpenManage Integration for VMware vCenter  
vSphere Web Client バージョン 3.0 用クイックイ  
ンストールガイド**



# メモ、注意、警告

-  **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

**著作権 © 2015 Dell Inc. 無断転載を禁じます。** この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell<sup>®</sup>、およびデルのロゴは、米国および/またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

June 2015

Rev. A00

# 目次

<b>1 インストールのクイックスタート</b> .....	<b>5</b>
インストールについて.....	5
作業を開始する前に.....	5
ハードウェア要件.....	6
ソフトウェア要件.....	6
インストールと設定の概要.....	6
vSphere Web Client を使用した OMIVV OVF の導入.....	7
OpenManage Integration for VMware vCenter の登録とライセンスファイルのインポート.....	8
インストールの検証.....	12
<b>2.x から 3.0 への移行のための移行パス</b> .....	<b>12</b>
旧プラグインの登録が解除された場合に OpenManage Integration for VMware vCenter を回復する.....	14
<b>2 OpenManage Integration for VMware vCenter の設定または編集方法の理解</b> .....	<b>15</b>
設定ウィザードようこそページ.....	15
vCenter の選択.....	15
初期設定ウィザードを使用した新規接続プロファイルの作成.....	16
インベントリジョブのスケジュールウィザード.....	18
保証取得ジョブウィザードの実行.....	19
イベントおよびアラームの設定ウィザード.....	19
シャーシプロファイルの作成.....	20
<b>3 その他の構成設定</b> .....	<b>21</b>
保証期限通知.....	21
保証期限通知の設定の表示.....	21
保証期限通知の設定.....	21
ファームウェアアップデートリポジトリ.....	22
ファームウェア更新リポジトリの設定.....	22
OMSA ウェブサーバー URL.....	22
<b>4 OpenManage Integration for VMware vCenter ライセンス</b> .....	<b>24</b>
ライセンスタイプ.....	24
評価用ライセンス 標準ライセンス.....	24
ライセンスのアップロード.....	24
ライセンスのアップロード後のオプション.....	25
新しく購入された製品のライセンスファイル.....	25
ライセンスのスタッキング.....	25
期限切れのライセンス.....	25

ライセンスの交換 .....	25
強制.....	25
アプライアンスのアップデート.....	25
評価用ライセンス.....	26
接続プロファイルへのホストの追加.....	26

# インストールのクイックスタート


## インストールについて


本ガイドでは、Dell サーバー上の OpenManage Integration for VMware vCenter (OMIVV) のインストールおよび設定の手順をステップバイステップで説明します。インストールが完了した後、インベントリ管理、監視とアラート、ファームウェアアップデート、および保証管理を含むすべての管理面に関する情報については、[dell.com/support/manuals](http://dell.com/support/manuals) で『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーガイド）を参照してください。

## 作業を開始する前に

製品をインストールする前に、次の前提条件が満たされている必要があります。

- OMIVV 仮想アプライアンスに割り当てる TCP/IP アドレス情報。
- vCenter サーバーにアクセスするための、OMIVV のユーザー名とパスワード。これは、すべての必要な権限を持つ管理者役割である必要があります。vCenter 内で使用できる OMIVV 役割の詳細については、[dell.com/support/manuals](http://dell.com/support/manuals) で『*Open Manage Integration for VMWare vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーガイド）を参照してください。
- ESXi ホストシステム、またはホスト上の管理者権限を持つ Active Directory の root パスワード。
- iDRAC Express または Enterprise に関連付けられたユーザー名とパスワード。
- vCenter サーバーが現在稼働中であることを確認してください。
- OMIVV OVF ファイルの場所を把握します。
- 任意の ESXi ホストに OMIVV（仮想アプライアンス）をインストールします。
- お使いの VMware vSphere 環境は、仮想アプライアンス、ポートアクセス、およびリスニングポート要件を満たす必要があります。さらに、クライアントシステムには Adobe Flash player 11.2 またはそれ以降をインストールしてください。VMware マニュアルについての詳細は、*VMware vCenter 5.5 ユーザーズガイド* とリリースノートを参照してください。

 **メモ:** 仮想アプライアンスは通常の仮想マシンとして機能します。中断またはシャットダウンは、仮想アプライアンスの全体的な機能に影響を与えます。

 **メモ:** OMIVV は、ESXi 5.5 以降に導入されたときに、VMware ツールを実行中（旧式）として表示します。アプライアンスの導入が正常に行われた後、または必要に応じて VMware ツールをアップグレードできます。

 **メモ:** OMIVV と vCenter Server は、同じネットワーク上にあることが推奨されます。

## ハードウェア要件

OMIVV は、iDRAC Express または Enterprise を搭載したサーバーに対する全機能サポートがある、複数世代の Dell サーバー向けに完全サポートを提供します。プラットフォームの詳しい情報については、『*OpenManage Integration for VMware vCenter Release Notes*』（OpenManage Integration for VMware vCenter のリリースノート）（[Dell.com/support/manuals](http://Dell.com/support/manuals)）に記載されています。お使いのホストサーバーが適格であることを検証するには、『*OpenManage Integration for VMware vCenter Compatibility Matrix*』（OpenManage Integration for VMware vCenter 互換性マトリクス）（[Dell.com/support/manuals](http://Dell.com/support/manuals)）の表を参照してください。

- 対応サーバーと最小 BIOS
- サポートされる iDRAC バージョン（導入および管理の両方）
- 古いサーバーに対する OMSA サポートと ESXi バージョンサポート（導入および管理の両方）

## ソフトウェア要件

vSphere 環境は、仮想アプライアンス、ポートアクセス、およびリスニングポート要件を満たす必要があります。

 **メモ:** VMware vSphere にはデスクトップクライアントとウェブクライアントの両方があります。

### ウェブクライアント向けの要件

vCenter 5.5 またはそれ以降に対応します。

特定のソフトウェア要件については、[dell.com/support/manuals](http://dell.com/support/manuals) にある『*OpenManage Integration for VMware vCenter Compatibility Matrix*』（OpenManage Integration for VMware 互換性マトリクス）を参照してください。

### OpenManage Integration for VMware vCenter のポート要件

ポート番号	説明
443 (https) および 80 (http)	管理コンソールの場合
4433(https)	自動検出およびハンドシェイクの場合
162 および 11620	SNMP トラップリスナーの場合
2049、4001、4002、4003、4004	NFS 共有の場合

## インストールと設定の概要

次の高度な手順は、OMIVV の全体的な取り付け手順の概要を示します。これらの手順では、必要なハードウェアが設置され、必要な vCenter ソフトウェアが稼働していることを前提としています。

次の情報は、インストール手順の概要を示しています。実際のインストールを開始するには、「[Web Client を使用した OVF の展開](#)」の項を参照してください。

### インストールの概要

1. OMIVV をインストールします。
  - a. システムが接続されており、vCenter サーバーが起動し実行中であることを確認します。

- b. vSphere Client または vSphere Web Client を使用して、OMIVV が含まれる Open Virtualization Format (OVF) ファイルを展開します。
- c. ライセンスファイルをアップロードします。
- d. 管理コンソールを使用して OMIVV を vCenter Server に登録します。



メモ: FQDN を使用した登録が強く推奨されます。IP/FQDN ベースの登録の両方で、vCenter のホスト名が DNS サーバーによる適切な解決が可能である必要があります。

2. 初期設定ウィザードを完了します。

## vSphere Web Client を使用した OMIVV OVF の導入

この手順は、製品 zip ファイル (**Dell\_OpenManage\_Integration\_<version number>.<build number>.zip**) が Dell ウェブサイトからダウンロードおよび解凍されていることを前提としています。

vSphere Web Client を使用して OMIVV OVF を導入するには：

1. ダウンロードして解凍した OMIVV 仮想ディスクの場所を検索し、**Dell\_OpenManage\_Integration.exe** を実行します。
2. EULA に同意し、OVF ファイルを保存します。
3. アプライアンスをアップロードする VMware vSphere ホストへのアクセスが可能な場所に、OVF ファイルをコピーまたは移動します。
4. VMware vSphere Web Client を開始します。
5. VMware vSphere Web Client からホストを選択し、メインメニューで **アクション** → **OVF テンプレートの展開** をクリックします。

ホストを右クリックして **OVF テンプレートの展開** を選択することもできます。

OVF テンプレートの導入ウィザードが表示されます。


6. ソースの選択 ウィンドウで、次のいずれかを実行します。
  - a. URL : インターネットから OVF パッケージをダウンロードする場合、URL を選択します。
  - b. ローカルファイル : ローカルシステムから OVF パッケージを選択する場合、ローカルファイル を選択して **参照** をクリックします。



メモ: OVF パッケージがネットワーク共有にある場合、インストールには 10~30 分かかります。短時間でインストールしたい場合は、OVF をローカルドライブでホストすることをお勧めします。

7. **次へ** をクリックします。詳細の表示 ウィンドウが表示されます。
8. 次の情報が **詳細の表示** ウィンドウに表示されます。
  - a. 製品 : OVF テンプレート名が表示されます。
  - b. バージョン : OVF テンプレートのバージョンが表示されます。
  - c. ベンダー : ベンダー名が表示されます。
  - d. 発行者 : 発行者の詳細が表示されます。
  - e. ダウンロードサイズ : OVF テンプレートの実際のサイズ (ギガバイト単位) です。
  - f. ディスクのサイズ : シックおよびシンプロビジョニングの詳細が表示されます。
  - g. 説明 : コメントを表示できます。
9. **次へ** をクリックします。名前とフォルダの選択 ウィンドウが表示されます。
10. 名前とフォルダの選択 ウィンドウで次の手順を実行します。
  - a. 名前 で、テンプレートの名前を入力します。この名前は半角文字で 80 文字以下となるようにします。
  - b. フォルダまたはデータセンターの選択 リストで、テンプレートを展開する場所を選択します。
11. **Next** (次へ) をクリックします。  
ストレージの選択 画面が表示されます。


12. ストレージの**選択** ウィンドウで、次のいずれかを実行します。
  - a. **仮想ディスクフォーマットの選択** ドロップダウンリストから、仮想ディスクの保存用にシックプロビジョン（レイジーゼロ）、シックプロビジョン（イーガーゼロ）、またはシンプロビジョンを選択します。シックプロビジョン（イーガーゼロ）を選択することをお勧めします。
  - b. **VM ストレージポリシー** ドロップダウンリストから、ポリシーのいずれかを選択します。
13. **次へ** をクリックします。**ネットワークのセットアップ** ウィンドウが表示されます。
14. 送信元および宛先ネットワークについての詳細が記載されている **ネットワークのセットアップ** ページが表示されます。**次へ** をクリックします。

 **メモ:** OMIVV と vCenter Server は、同じネットワーク上にあることが推奨されます。
15. **完了の準備** ウィンドウで、OVF 展開タスクに選択したオプションをレビューし、**終了** をクリックします。

展開ジョブが実行され、ジョブの進捗状況を追跡できる完了ステータスウィンドウが表示されます。

## OpenManage Integration for VMware vCenter の登録とライセンスファイルのインポート

この手順は、[download\\_software@dell.com](mailto:download_software@dell.com) から E-メールの添付としてライセンスを受け取っていることを前提としています。複数のライセンスをお持ちの場合は、ライセンスを続けて追加することができます。ライセンスファイルは XML 形式のファイルでご利用いただけます。

-  **メモ:** お使いのクライアント向けにカスタム証明書をアップロードする場合は、vCenter 登録前に新しい証明書をアップロードする必要があります。vCenter 登録後に新しいカスタム証明書をアップロードすると、Web Client に通信エラーが表示されます。この問題を修正するには、vCenter 登録を解除してから登録する必要があります。
1. vSphere Client から **ホーム** → **ホストとクラスター** を選択し、左ペインで先ほど展開した OMIVV の場所を特定して、**仮想マシンの電源をオンにする** をクリックします。

展開中に **展開後に電源をオン** を選択した場合、展開が完了したら VM の電源を自動的にオンになります。
  2. メインの **VMware vCenter** ウィンドウの **コンソール** タブをクリックして、**管理コンソール** を実行します。
  3. OMIVV が起動を終了するまで待ち、管理者のユーザー名（デフォルトは Admin）を入力してパスワードを設定します。
  4. OMIVV ネットワークおよびタイムゾーン情報を設定します。

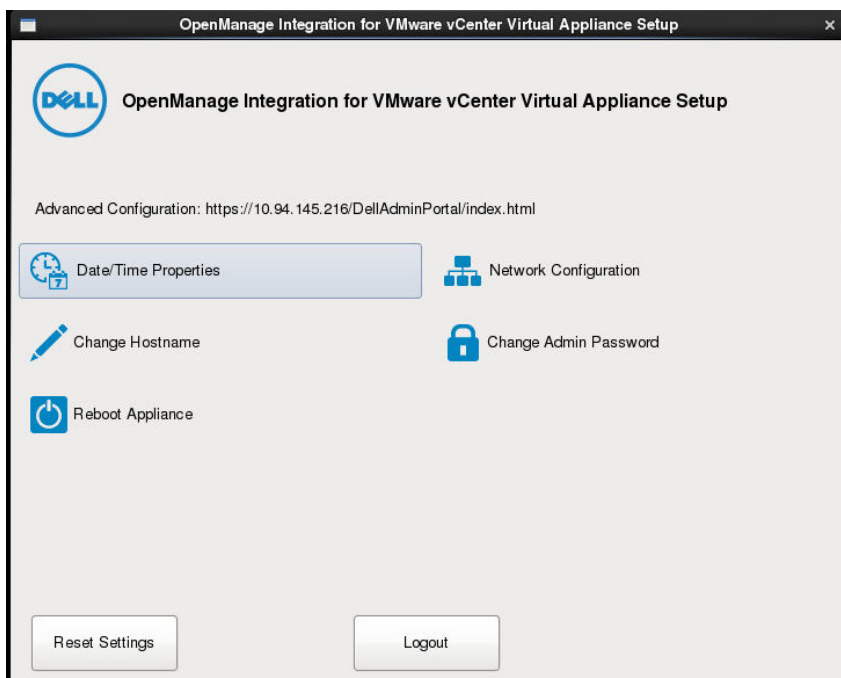


図 1. コンソールタブ

5. 製品の**管理コンソール**を開くには、ウェブブラウザを開いてアプライアンスの IP アドレスまたはホスト名を入力します。  
IP アドレスは、アプライアンス VM の IP アドレスであり、ESXi ホスト IP アドレスではありません。管理コンソールにアクセスするには、コンソール上部に示される URL を使用します。  
例えば：**https://10.210.126.120** または **https://myesxihost** です。

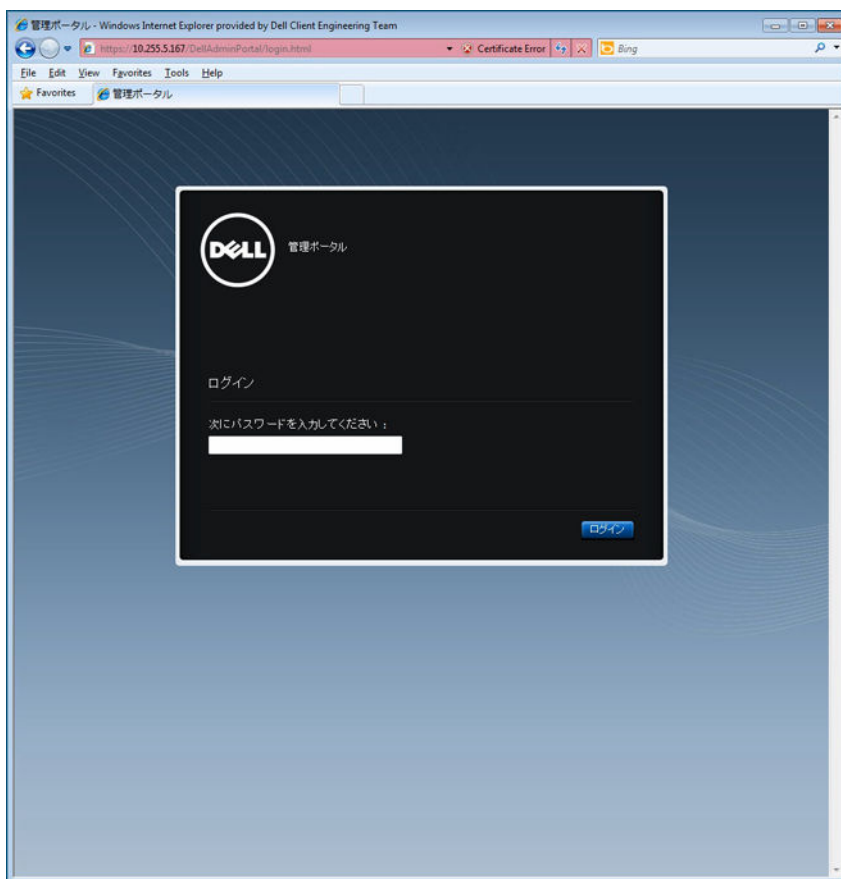


図 2. 管理コンソール

6. 管理コンソールのログインウィンドウでパスワードを入力し、ログインをクリックします。

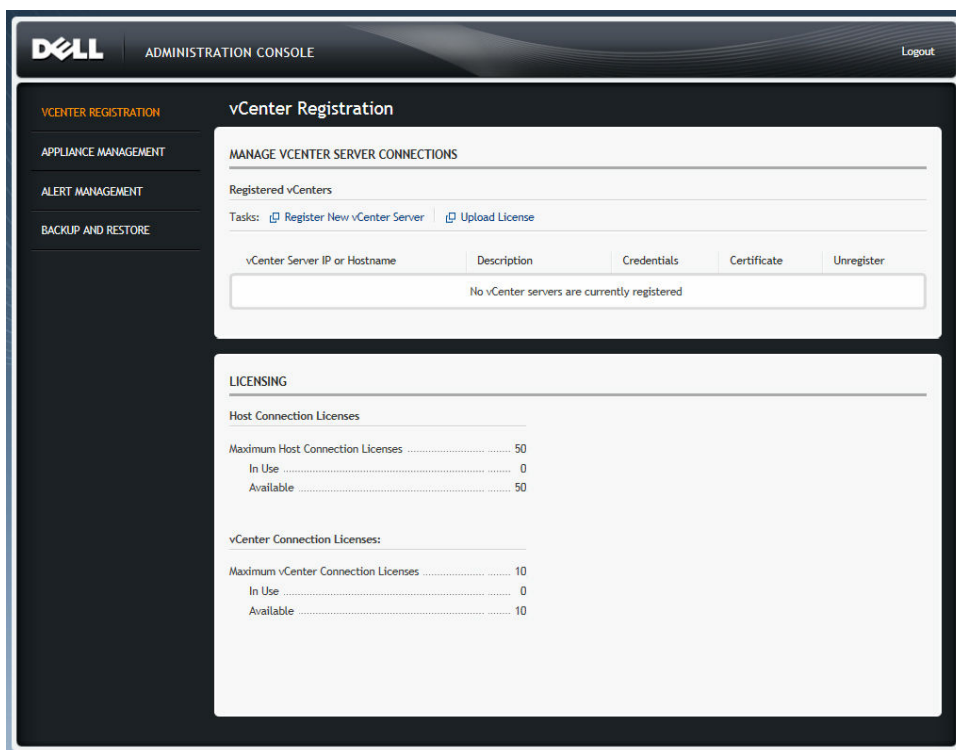




図 3. 管理コンソール内からの vCenter 登録ウィンドウ

7. vCenter 登録 ウィンドウで、新規 vCenter Server の登録 をクリックします。
8. 新規 vCenter Server の登録 ウィンドウで、次の手順を実行します。
  - a. vCenter の名前 で、vCenter サーバー IP またはホスト名 テキストボックスにサーバー IP またはホスト名を入力した後で、説明 テキストボックスに任意の詳細説明を入力します。
 

 **メモ:** 完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用した登録は必須ではありませんが、強く推奨されます。インターネットプロトコル (IP) と FQDN ベースの登録の両方で、vCenter のホスト名が DNS サーバーにより適切に解決できる必要があります。
  - b. 管理者ユーザーアカウントの管理者ユーザー名に管理者ユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン\ユーザー、ドメイン/ユーザー、またはユーザー@ドメインの形式のいずれかで入力します。管理者ユーザーアカウントは OMIVV 管理によって使用されます。
  - c. パスワードにパスワードを入力します。
  - d. パスワードの確認にパスワードをもう一度入力します。
9. Register (登録) をクリックします。
 

 **メモ:** OMIVV の 1 つのインスタンスは、最大 10 個の vCenter をサポートできますが、これは OMIVV と同じ vCenter SSO です。vCenter の複数の独立したインスタンスは現在サポートされていません。
10. 次の手順のいずれか 1 つを実行します。
  - OMIVV の評価バージョンをお使いの場合は、手順 12 に進みます。
  - 完全製品バージョンをお使いの場合は、ライセンスファイルが E-メールで送付されるので、このライセンスを仮想アプライアンスにインポートする必要があります。ライセンスファイルをインポートするには、ライセンスのアップロード をクリックします。
11. ライセンスのアップロード ウィンドウで参照 をクリックしてライセンスファイルの参照先を指定し、アップロード をクリックしてライセンスファイルをインポートします。

## メモ:

- ライセンスファイルが何らかの形で変更または編集されている場合、ライセンスファイルは機能せず、元の注文番号を記載した電子メールを [download\\_software@dell.com](mailto:download_software@dell.com) まで送信する必要があります。ライセンス XML ファイルはこの手順で使用され、ハードコーディングされたファイル名では提供されません。
- アップロードに個々のライセンス XML を使用することはできないので、その代わりに圧縮ファイルに含まれたライセンス XML を使用します。

OMIVV OMIVV が登録されたら、ウェブクライアントホームページの管理カテゴリに表示されます。

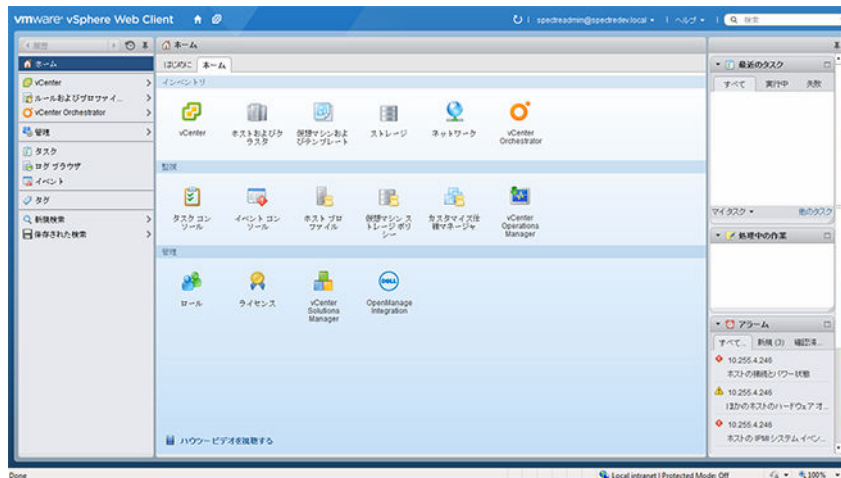


図 4. OpenManage Integration for VMware vCenter が vCenter に正常に追加されました。

## インストールの検証

次の手順は OMIVV のインストールが正常に行われたことを検証します。

1. vSphere Client ウィンドウをすべて閉じ、新しい vSphere Web Client を開始します。
2. OMIVV アイコンが vSphere Web Client 内に表示されることを確認します。
3. vCenter Server から仮想アプライアンス IP アドレスまたはホスト名宛てに PING コマンドの実行を試行して、vCenter が OMIVV と通信可能であることをチェックします。
4. vSphere Web Client で、プラグイン → 管理対象プラグイン をクリックします。
5. プラグインマネージャ ウィンドウで、OMIVV がインストールされ、有効化されていることを検証します。

## 2.x から 3.0 への移行のための移行パス

バックアップとリストアのパスを使用して、旧バージョン (2.x) からバージョン 3.0 リリースに移行することができます。あるいは、旧バージョンをアンインストールした後、v3.0 OVF を改めて展開することもできます。

旧バージョンから OMIVV 3.0 バージョンに移行するには、次の手順を実行します。

1. 以前 (v2.x) のリリースのデータベースのバックアップを行います。

詳細については、[dell.com/support/manuals](http://dell.com/support/manuals)にある『*OpenManage Integration for VMware vCenter version 3.0 User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter 3.0 ユーザーズガイド）を参照してください。

2. vCenter から旧アプライアンスの電源を切ります。



**メモ:** vCenter からプラグインの登録を解除しないでください。vCenter からプラグインの登録を解除すると、プラグインによって登録されたアラームすべてが削除され、さらにアクションなどアラーム上で実行されたすべてのカスタマイズが削除されます。バックアップ後プラグインの登録を解除した場合、詳細については、「[旧プラグインの登録が解除された場合に OpenManage Integration for VMware vCenter を回復する](#)」を参照してください。

3. 新しい OpenManage Integration バージョン 3.0 OVF を展開します。

OVF 展開の詳細については、「[vSphere Web Client を使用した OMIVV OVF の導入](#)」を参照してください。

4. OpenManage Integration バージョン 3.0 アプライアンスに電源を入れます。

5. アプライアンスのネットワークおよびタイムゾーンを設定します。

新しい OpenManage Integration バージョン 3.0 には、旧アプライアンスと同じ IP アドレスがあることが必要です。ネットワーク詳細を設定するには、「[OpenManage Integration for VMware vCenter の登録とライセンスファイルのインポート](#)」を参照してください。



**メモ:** OMIVV 3.0 アプライアンスの IP アドレスが、旧アプライアンスのものと同じでない場合、プラグインが正常に動作しない可能性があります。この場合、すべての vCenter インスタンスの登録を解除して、再度登録してください。

6. 新しいアプライアンスにデータベースを復元します。

詳細については、[dell.com/support/manuals](http://dell.com/support/manuals)にある『*OpenManage Integration for VMware vCenter Version 3.0 User Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 3.0 ユーザーガイド）の「**Restoring The Database From A Backup**」（バックアップからのデータベース復元）を参照してください。

7. 新しいライセンスファイルをアップロードします。

詳細については、「[OpenManage Integration for VMware vCenter の登録とライセンスファイルのインポート](#)」を参照してください。

8. アプライアンスを検証します。

データベース移行が正常に行われたことを確認するための詳細については、本ガイドの「**インストールの検証**」を参照してください。

9. 登録された vCenter すべてで**インベントリ**を実行します。




**メモ:**

アップグレード後は、プラグインによって管理されているホストのすべてで再度インベントリを実行することが推奨されます。オンデマンドでインベントリを実行するための手順に関する詳細は、「**インベントリジョブの実行**」を参照してください。

新しい OMIVV バージョン 3.0 のアプライアンスの IP アドレスが旧アプライアンスのものから変更された場合、SNMP トラップのトラップ送信先が新規アプライアンスをポイントするように設定する必要があります。第 12 世代および 13 世代サーバーでは、これらのホスト上でインベントリを実行することにより修正されます。以前は準拠していたすべての第 11 世代以前のホストには、この IP 変更が非準拠として表示され、OMSA を設定する必要があります。ホストコンプライアンスの修正の詳細については『*OpenManage Integration for VMware vCenter Version 3.0 User Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 3.0 ユーザーガイド）([dell.com/support/manuals](http://dell.com/support/manuals)) の「**Running the Fix Non-Compliant VSphere hosts Wizard**」（非準拠 VSphere ホストウィザードの実行）を参照してください。

## 旧プラグインの登録が解除された場合に OpenManage Integration for VMware vCenter を回復する

旧バージョンのデータベースのバックアップ取得後にプラグインの登録を解除した場合は、移行に進む前に次の手順を実行してください。

 **メモ:** プラグインの登録解除により、プラグインによって登録済みアラームに実装されたカスタマイズのすべてが削除されます。次の手順では、カスタマイズを復元することはできませんが、アラームをデフォルト状態で再登録します。

1. 「[2.x から 3.0 への移行のための移行パス](#)」の手順 3~5 を実行します。
2. 旧プラグインで以前登録したものと同一 vCenter にプラグインを登録します。
3. 「[2.x から 3.0 への移行のための移行パス](#)」の手順 6~8 を実行して移行を完了します。


# OpenManage Integration for VMware vCenter の設定または編集方法の理解

OMIVV の基本情報を入力し、OMIVV アイコンをクリックすると、初期設定ウィザードが表示されます。最初の起動時に初回設定ウィザードを使って、設定を行います。次回のインスタンスには設定ページを使用します。初期設定ウィザードで、接続プロファイル、保証、インベントリ、イベント、およびアラームを作成することができます。初期設定ウィザードの使用は最も一般的な手段ですが、前記の作業は、OMIVV の **OpenManage Integration** → **管理** → **設定** ページからも実行することができます。初期設定ウィザードの詳細は、『*OpenManage Integration for VMware vCenter User Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーガイド）（[dell.com/support/manuals](http://dell.com/support/manuals)）を参照してください。

## 設定ウィザード使用の設定タスク

初期設定ウィザードを使用して、1 つの vCenter、または複数の登録済み vCenter に以下を設定することができます。

1. [vCenter の選択](#)
2. [新しい接続プロファイルの作成](#)
3. [インベントリジョブのスケジュール](#)
4. [保証取得ジョブの実行](#)
5. [イベントおよびアラームの設定](#)

 **メモ:** 初期設定ウィザードは、**開始** ページの **基本タスク** の下にある **初期設定の開始ウィザード** のリンクからも行うことができます。

## 設定ウィザードようこそページ

OMIVV をインストールした後は、設定する必要があります。

1. vSphere ウェブクライアントで、ホーム、**OpenManage Integration** アイコンの順にクリックします。
2. 初めて **OpenManage Integration** アイコンをクリックすると、**設定ウィザード** が表示されます。このウィザードには **OpenManage Integration** → **はじめに** → **初期設定ウィザードの開始** ページからもアクセスできます。


## vCenter の選択

vCenter の **選択** ページを使用して、次の項目を設定することができます。

- 特定の vCenter

- 使用可能なすべての vCenter

1. 初期設定ウィザードのようこそ画面で、**次へ**をクリックします。
2. **vCenters** ドロップダウンリストから1つ、またはすべての vCenter を選択します。  
まだ設定されていない、またはお使いの環境に新規 vCenter を追加した場合、個々の vCenter を選択します。vCenter 選択ページでは、1つまたは複数の vCenter を選択して設定できます。
3. **次へ**をクリックして、**接続プロファイル**の説明ページに進みます。


 **メモ:** 同じ SSO の一部として複数の vCenter サーバーがある場合、および単一の vCenter サーバーを構成することを選択した場合は、各 vCenter を設定するまで次の手順を繰り返します。


## 初期設定ウィザードを使用した新規接続プロファイルの作成

接続プロファイルは、仮想アプライアンスが Dell サーバーと通信するのに使用する iDRAC およびホスト資格情報を保存します。各 Dell サーバーは、OMIVV によって管理される接続プロファイルに関連付けられている必要があります。複数のサーバーを1つの接続プロファイルに割り当てることができます。接続プロファイルは、設定ウィザードを使って作成することも **OpenManage Integration for VMware vCenter → 設定** から作成することもできます。

iDRAC とホストには Active Directory の資格情報を使用してログインすることができます。


 **メモ:** 接続プロファイルに Active Directory 資格情報を使用する前に、Active Directory ユーザーのアカウントに存在しており、iDRAC とホストが Active Directory ベースの認証のために設定されている必要があります。

 **メモ:** Active Directory 資格情報は iDRAC とホストの両方に使用することも、アクティブディレクトリ資格情報を別途設定することもできます。ユーザー資格情報は、管理者権限を持っている必要があります。

 **メモ:** 追加されたホストの数が接続プロファイルの作成に対するライセンス制限を超過する場合は、接続プロファイルを作成できません。




設定ウィザードを使用する新規接続プロファイルの作成には、以下を行います。

1. **接続プロファイルの説明** ページで、**次へ**をクリックします。
2. **名前と資格情報** ページで、**接続プロファイル名** と、オプションの **接続プロファイルの説明** を入力します。
3. **名前と資格情報** ページの **iDRAC 資格情報** で、次のいずれかを実行します。

 **メモ:** iDRAC アカウントには、ファームウェアのアップデート、ハードウェアプロファイルの適用、およびハイパーバイザの展開に管理者権限が必要です。



- 使用する Active Directory 用に iDRAC の設定および有効化が Active Directory ですで行われている場合は、**Active Directory を使用する** を選択します。それ以外は、**iDRAC 資格情報** の設定に進みます。
  - **Active Directory ユーザー名** に、**ユーザー名** を入力します。ユーザー名は、**ドメイン/ユーザー名** または **ユーザー名@ドメイン** のいずれかの形式で入力してください。ユーザー名は 256 文字に制限されています。ユーザー名の制限については、**Microsoft Active Directory マニュアル** を参照してください。
  - **Active Directory パスワード** にパスワードを入力します。パスワードは 127 文字に制限されています。
  - **パスワードの確認** にパスワードをもう一度入力します。

- 次のいずれかの手順を実行します。
  - \* iDRAC 証明書をダウンロードおよび保存して、今後すべての接続でその証明書の検証を行うには、**証明書チェックを有効にする** を選択します。
  - \* iDRAC 証明書を保存せず、今後すべての接続で iDRAC 証明書チェックを実行しないようにするには、**証明書チェックを有効にする** チェックボックスのチェックを外します。
- Active Directory なしで iDRAC 資格情報を設定するには、次のいずれかを行います。
  - **ユーザー名** にユーザー名を入力します。ユーザー名は 16 文字に制限されています。お使いのバージョンの iDRAC におけるユーザー名の制限についての情報は、iDRAC マニュアルを参照してください。
  - **パスワード** にパスワードを入力します。パスワードは 20 文字に制限されています。
  - **パスワードの確認** にパスワードをもう一度入力します。
  - 次のいずれかの手順を実行します。
    - \* iDRAC 証明書をダウンロードおよび保存して、今後すべての接続でその証明書の検証を行うには、**証明書チェックを有効にする** を選択します。
    - \* iDRAC 証明書を保存せず、今後すべての接続で iDRAC 証明書チェックを実行しないようにするには、**証明書チェックを有効にする** チェックボックスのチェックを外します。
- 4. ホストのルートエリアで、次のいずれかを実行します。
  - 使用する Active Directory 用にホストの設定および有効化が Active Directory ですで行われている場合は、**Active Directory を使用する** を選択します。それ以外は、**ホスト資格情報** を設定します。
    - **Active Directory ユーザー名** に **ユーザー名** を入力します。ユーザー名は、**ドメイン/ユーザー名**、または **ユーザー名@ドメイン** のいずれかの形式で入力してください。ユーザー名は 256 文字に制限されています。  
ホストユーザー名とドメインの制限については、次を参照してください。  
**ホストユーザー名要件：**
      - a. 1~64 文字長
      - b. 印刷可能文字
      - c. 無効な文字："/\[:;|=,\*?<>@
    - ホストドメイン要件：**
      - a. 1~64 文字長
      - b. 最初の文字はアルファベットであることが必須
      - c. スペースは使用不可
      - d. 無効な文字："/\:|,\*?<>~!@#\$%^&'(){}\_
  - **Active Directory パスワード** にパスワードを入力します。パスワードは 127 文字に制限されていません。
  - **パスワードの確認** にパスワードをもう一度入力します。
  - 次のいずれかの手順を実行します。
    - \* ホスト証明書をダウンロードおよび保存して、今後すべての接続でその証明書の検証を行うには、**証明書チェックを有効にする** を選択します。
    - \* ホスト証明書を保存せず、今後すべての接続で iDRAC 証明書チェックを実行しないようにするには、**証明書チェックを有効にする** チェックボックスのチェックを外します。

- **Active Directory** なしでホスト資格情報を設定するには、次のいずれかを行います。
  - **ユーザー名** にあるユーザー名は **root** です。これはデフォルトの **ユーザー名** で、変更することはできませんが、**Activate Directory** が設定されている場合、**root** に限らず任意の **Active Directory** ユーザー名を選択することができます。
  - **パスワード** にパスワードを入力します。パスワードは **127** 文字に制限されています。
    -  **メモ:** OMSA 資格情報は、ESXi ホストに使われたものと同じです。
  - **パスワードの確認** にパスワードをもう一度入力します。
  - 次のいずれかの手順を実行します。
    - \* ホスト証明書をダウンロードおよび保存して、今後すべての接続でその証明書の検証を行うには、**証明書チェックを有効にする** を選択します。
    - \* ホスト証明書を保存せず、今後すべての接続で **iDRAC 証明書チェック** を実行しないようにするには、**証明書チェックを有効にする** チェックボックスのチェックを外します。
- 5. **次へ** をクリックします。
- 6. **関連ホスト** ページで、接続プロファイルのホストを選択し、**次へ** をクリックします。
- 7. 接続プロファイルをテストするには、1 台または複数のホストを選択し、**次に接続性テスト** をクリックします。
  -  **メモ:** この手順は任意です。これは、ホストおよび iDRAC の資格情報が正しいかどうかを確認するのに使用されます。
- 8. プロファイルを完成するには、**次へ** をクリックします。
  -  **メモ:** iDRAC Express または Enterprise カードがないサーバーでは、iDRAC テスト接続結果は、このシステムには該当しませんが表示されます。

## インベントリジョブのスケジュールウィザード

インベントリスケジュール設定は、設定ウィザードを使用するか、または **OpenManage Integration** → **設定の管理** → にある **OpenManage Integration** で行うことができます。

-  **メモ:** OMIVV が常に最新の情報を表示するようにするため、定期的なインベントリジョブをスケジュールすることをお勧めします。インベントリジョブは最小のリソースで実行でき、ホストのパフォーマンスを劣化させることはありません。
-  **メモ:** すべてのホストのインベントリが実行されると、シャーシが自動的に検出されます。シャーシがシャーシのプロファイルに追加されると、シャーシのインベントリが自動的に実行されます。複数の vCenter を持つ SSO 環境では、スケジュールされた時刻にいずれかの vCenter でインベントリが実行されると、すべての vCenter でシャーシのインベントリが自動的に実行されます。

インベントリジョブのスケジュールには、以下を行います。

1. **設定ウィザードのインベントリのスケジュール** ウィンドウで、有効化がまだの場合は、**インベントリデータの取得を有効にする** を選択します。
 

デフォルトでは、**インベントリデータの取得を有効にする** が有効になっています。
2. **インベントリデータの取得スケジュール** で、次の手順を行います。
  - a. インベントリを実行する各曜日の横にあるチェックボックスを選択します。デフォルトでは **毎日** が選択されています。
  - b. テキストボックスに、時刻を **HH:MM** フォーマットで入力します。
 

入力する時刻は現地時間です。したがって、仮想アプライアンスのタイムゾーンでインベントリを実行したい場合は、現地時間と仮想アプライアンスのタイムゾーンの時間との差を計算して、適切な時刻を入力してください。

3. 変更内容を適用して続行するには、**次へ**をクリックして保証スケジュール設定に進みます。

## 保証取得ジョブウィザードの実行


保証取得ジョブ設定は、OMIVV の設定オプションから行います。さらに、**ジョブキュー->保証** から保証取得ジョブを実行またはスケジュールすることもできます。スケジュールされたジョブは、ジョブキューにリストされています。複数の vCenter が存在する SSO 環境では、シャージの保証は、いずれかの vCenter の保証が実行されるたびに、すべての vCenter で自動的に実行されます。シャージプロファイルに追加された場合、保証は自動的に実行されません。

保証取得ジョブを実行するには以下を行います。

1. **設定ウィザードの保証のスケジュール** ウィンドウで、**保証データの取得を有効にする** を有効化して、保証をスケジュールできるようにします。
2. **保証データの取得スケジュール** の下で、次の操作を実行します。
  - a. 保証を実行したい各曜日の横にあるチェックボックスを選択します。
  - b. テキストボックスに、時刻を HH:MM フォーマットで入力します。  
入力する時刻は現地時間です。したがって、仮想アプライアンスのタイムゾーンでインベントリを実行したい場合は、現地時間と仮想アプライアンスのタイムゾーンの時間との差を計算して、適切な時刻を入力してください。
3. 変更内容を適用して続行するには、**次へ**をクリックして**イベントとアラーム** 設定に進みます。


## イベントおよびアラームの設定ウィザード


設定ウィザードまたは**イベントとアラーム** の**設定** オプションからイベントおよびアラームの設定を行うことができます。サーバーからイベントを受信するため、OMIVV がサーバーからのトラップ送信先として設定されています。第 12 世代ホストおよびそれ以降では、SNMP トラップ送信先を iDRAC で設定する必要があります。第 12 世代より前のホストでは、トラップ世代を OMSA に設定する必要があります。


 **メモ:** OMIVV は、第 12 世代以降ホストに対して SNMP v1 および v2 アラートをサポートしています。12 世代以前のホストについては、OMIVV がサポートするのは SNMP v1 アラートのみです。

イベントおよびアラームを設定するには、以下を行います。

1. **初期設定ウィザードのイベント掲載レベル** で、以下のいずれかを選択します。
  - すべてのイベントを掲載をしない - ハードウェアイベントはブロックされます。
  - すべてのイベントを掲載する - すべてのハードウェアイベントが掲載されます。
  - 重要および警告イベントのみを掲載する - 重要または警告レベルのハードウェアイベントのみが掲載されます。
  - 仮想化関連の重要および警告イベントのみを掲載する - 仮想化関連の重要および警告イベントのみが掲載されます。これはデフォルトのイベント掲載レベルです。
2. すべてのハードウェアアラームとイベントを有効化するには、**Dell ホストのアラームを有効にする** チェックボックスを選択します。

 **メモ:** アラームが有効化されている Dell ホストは、メンテナンスモードに入ることによって特定重要イベントの一部に対応します。
3. **Dell アラーム警告の有効化** ダイアログボックスが表示されたら、**続行** をクリックして変更を承諾、または**キャンセル** をクリックします。

 **メモ:** この手順は、**Dell ホストのアラームを有効にする** が選択されている場合にのみ実行する必要があります。


 **メモ:** アプライアンスの復元後、**イベントおよびアラーム** の設定は、グラフィックユーザーインターフェースで有効と表示されていても有効化されていません。**設定** ページから **イベントおよびアラーム** 設定を再度有効化する必要があります。

4. **適用** をクリックします。


## シャーシプロファイルの作成

OMIVV は OMIVV によって管理されている Dell サーバーに関連付けられたすべての Dell シャーシサーバーを監視できます。シャーシの監視にはシャーシプロファイルが必要です。シャーシ資格情報プロファイルを作成して、単一または複数シャーシと関連付けることができます。シャーシプロファイルは、次の手順を使用して作成されます。


1. **OpenManagement Integration for VMware vCenter** で、**管理** → **プロファイル** → **資格情報プロファイル** → **シャーシプロファイル** と選択します。
2. シャーシプロファイルページで、**プラス (+)** アイコンをクリックして **新しいシャーシプロファイル** を作成します。
3. シャーシプロファイルウィザードページで、次の手順を実行します。
  - a. **プロファイル名** テキストボックスに、プロファイル名を入力します。
  - b. **説明** テキストボックスに、オプションで説明を入力します。
4. **資格情報** で、次の手順を行います。
  - a. **ユーザー名** テキストボックスに管理者権限のあるユーザー名を入力します。これはシャーシ管理コントローラへのログオンに通常使用されるものです。
  - b. **パスワード** テキストボックスに対応するユーザー名のパスワードを入力します。
  - c. **パスワードの確認** テキストボックスに、**パスワード** テキストボックスに入力したものと同一パスワードを入力します。パスワードは一致する必要があります。

 **メモ:** 資格情報は、ローカルまたは **Active Directory** のものを使用できます。シャーシプロファイルに **Active Directory** 資格情報を使用する前に、**Active Directory** に **Active Directory** ユーザーアカウントが存在している必要があり、シャーシ管理コントローラが **Active Directory** ベースの認証に対して設定されている必要があります。

5. **次へ** をクリックします。  
**シャーシの選択** ページが表示され、使用可能なすべてのシャーシが表示されます。

 **メモ:** シャーシが検出され、任意のモジュラーホストの正常なインベントリ実行がそのシャーシに認められた後に初めてシャーシプロファイルに関連付けることができます。

6. 個々のシャーシまたは複数のシャーシのどちらかを選択するには、**IP/ホスト名** 列の横にある対応するチェックボックスを選択します。  
選択したシャーシがすでに別のプロファイルの一部である場合は、選択したシャーシがプロファイルに関連付けられていることを示す警告メッセージが表示されます。  
たとえば、シャーシ **A** に関連付けられている **テスト** というプロファイルがあるとします。別のプロファイル **テスト1** を作成してシャーシ **A** を **テスト1** に関連付けようとすると、警告メッセージが表示されます。
7. **OK** をクリックします。  
**関連付けられたシャーシ** ページが表示されます。
8. シャーシを選択し、**接続テスト** アイコンをクリックしてシャーシの接続性をテストします。これによって、資格情報が検証され、その結果が **テスト結果** 列に **合格** または **失敗** として表示されます。
9. **終了** をクリックしてプロファイルを完了します。

 **メモ:** **関連するシャーシ** ページの左上隅に表示されているプラスアイコンをクリックして、シャーシを追加または削除することもできます。

## その他の構成設定

次の設定はオプションですが、Plug-In 使用して VMware vCenter 内のホストを監視するために使用することができます。

- [保証期限通知](#)
- [ファームウェアアップデートリポジトリ](#)
- [OMSA ウェブサーバー URL](#)

## 保証期限通知

### 保証期限通知の設定の表示

1. OMIVV で、**管理** → **設定** タブをクリックします。
2. **アプライアンス設定** 下で **保証期限通知** をクリックします。  
**保証期限通知** ページに、以下の内容が表示されます。
  - 設定が有効または無効のどちらになっているかを表示します。
  - 初回警告設定に設定された日数。
  - 重要警告設定に設定された日数。
3. 保証期限通知を設定するには、[保証期限通知の設定](#)を参照してください。

### 保証期限通知の設定

保証期限を警告するように保証期限しきい値を設定することができます。


1. OMIVV で、**管理** → **設定** をクリックします。
2. **アプライアンス設定** 下の **保証期限通知** の右側で **編集** アイコンをクリックします。
3. **保証期限通知** ダイアログボックスで、保証期限通知を有効にするには、**ホストの保証期限通知を有効にする** を選択します。
4. **最小日数しきい値アラート** で、**警告** ドロップダウンリストから通知を希望する保証期限前日数を選択します。
5. **重要** リストから通知を希望する保証期限前日数を選択します。
6. **適用** をクリックします。

## ファームウェアアップデートリポジトリ

OMIVV の **設定** タブで、サーバーがファームウェアアップデートを受信する場所を設定することができます。これはグローバル設定です。

ファームウェアリポジトリ設定には、展開されたサーバーをアップデートするために使用されるファームウェアカタログの場所が含まれています。カタログの場所は次の通りです。

- **Dell (ftp.dell.com)** — Dell (ftp.dell.com) のファームウェアアップデートリポジトリを使用します。OMIVV は選択されたファームウェアアップデートを Dell リポジトリからダウンロードします。


 **メモ:** OMIVV がインターネットに接続して、ホストに適切なカタログとファームウェアパッケージを取得します。ネットワーク設定に応じて、ファームウェアアップデートタスク用のプロキシを設定し、Dell オンラインから正常に実行します。

- **共有ネットワークフォルダ** — Dell Repository Manager によって作成されます。これらのローカルリポジトリは、通常 CIFS または NFS ファイル共有にあります。

## ファームウェア更新リポジトリの設定


OMIVV の **設定** タブでは、ファームウェアアップデートリポジトリを設定することができます。

1. OMIVV で、**管理** → **設定** をクリックします。
2. **アプライアンス設定** 下の **ファームウェアアップデートリポジトリ** の右側にある **編集** アイコンをクリックします。
3. **ファームウェアアップデートリポジトリ** ダイアログボックスで、次のいずれかを選択します。
  - **Dell オンライン** — ステージングフォルダがあるデフォルトのファームウェアリポジトリ (ftp.dell.com) です。OMIVV が選択されたファームウェアアップデートをダウンロードし、それらをステージングフォルダに保存したら、ユーザーがファームウェアウィザードを実行してファームウェアをアップデートする必要があります。
  - **共有ネットワークフォルダ** — これらは Dell Repository Manager アプリケーションで作成されます。Windows または Linux ベースのファイル共有でこれらのローカルレポジトリを確認し、ライブリンクを使って Dell Repository Manager に移動します。
4. **共有ネットワークフォルダ** オプションを選択した場合は、次の形式を使用してカタログファイルの場所を入力します。
  - xml ファイル用の NFS 共有 : `host/share/filename.xml`
  - gz ファイル用の NFS 共有 : `host/share/filename.gz`
  - xml ファイル用の CIFS 共有 : `\\host\share\filename.xml`
  - gz ファイル用の CIFS 共有: `\\host\share\filename.gz`

 **メモ:** アップデートソースの**選択** ページにダウンロードの進行状況が表示されます。
5. ダウンロードが完了したら、**適用** をクリックします。

## OMSA ウェブサーバー URL


OMSA リンクは、OMSA がインストールされているホストサーバーのための OMSA GUI を起動する URL です。

 **メモ:** OMSA が必要なのは、Dell PowerEdge 第 11 世代のサーバーのみです。

1. OMIVV で、**管理** → **設定** をクリックします。
2. **vCenter 設定** の下、OMSA ウェブサーバー URL の右側で **編集** をクリックします。
3. **OMSA ウェブサーバー URL** ダイアログボックスに URL を入力します。  
HTTPS およびポート番号を含む完全な URL を含む必要があります。例：  
**https://10.0.0.1:1311** または **https://omsaur:1311**
4. これらの設定を**すべての vCenter に適用する** を選択して、OMSA URL をすべての vCenter に適用します。  
このチェックボックスを選択しないと、OMSA URL は 1 つの vCenter にしか適用されません。
5. 対応するホストの **サマリ** タブで、対応するホストから、リンクが機能しているかどうかを確認します。
6. Dell ホスト情報内で **OMSA コンソールリンク** が機能しているかどうかチェックします。

# OpenManage Integration for VMware vCenter ライセンス

この章は、OMIVV のライセンスに関する詳細について説明しています。3.0 に対する新しい変更点はありません。

 **メモ:** OMIVV のライセンス取得によって、vCenter 接続ライセンスの数が変更することはありません。vCenter のライセンスの最大数は 10 です。複数の vCenters を登録する必要がある場合、すべての vCenters が同じ SSO の一部であることが必要です。vCenter の別々のインスタンスは、この OMIVV リリースではサポートされません。

## ライセンスタイプ

バージョン 3.0 には 2 つのライセンスのタイプがあります。評価用ライセンスと標準のライセンスです。これらのライセンスでは、時間と Dell 第 11 世代以降のホスト数に基づいて機能が制限されています。

### 評価用ライセンス

OMIVV バージョン 3.x アプライアンスの電源を初めてオンにすると、評価ライセンスが自動的にインストールされます。この評価用ライセンスでは、初回起動から 90 日間の評価期間は機能をブロックせずに、OMIVV が 5 つの ESXi の第 11 世代およびより新しいホストを操作および管理できます。標準ライセンスがアップロードされると、評価ライセンスは使用されなくなります。


### 標準ライセンス

標準ライセンスはデルから購入できます。管理下の VMware ESXi を実行している第 11 世代以降のサーバー台数と製品サポートの期間に基づいて、ライセンス注文時に異なる購入 SKU が使用されます。ライセンスには、3 年または 5 年間のいずれかの製品サポートとアプライアンスアップデートが含まれます。

## ライセンスのアップロード

ライセンスを購入すると、ユーザーにライセンスファイルが含まれた電子メールが送信されます。このライセンスは、Web ベースの管理コンソールからアップロードするものであり、アプライアンスの IP アドレスを使用してアクセスできます。

1. ライセンスは、vCenter 登録ページのライセンスのアップロードリンクを使ってアップロードします。
2. ライセンスのアップロードリンクをクリックしたら、ライセンスのアップロードダイアログボックスが表示されます。
3. ライセンス XML ファイルを参照して、アップロードをクリックします。

 **メモ:** ライセンスファイルは zip ファイルの形式で送信される可能性があります。zip ファイルを解凍してから、ライセンスファイルのみをアップロードするようにしてください。ライセンスファイルは通常、注文番号に基づいて命名されています (123456789.xml など)。

4. ライセンスアップロードが成功したら、アップロードライセンスファイルに成功メッセージが表示されます。

## ライセンスのアップロード後のオプション

### 新しく購入された製品のライセンスファイル

新しいライセンスを購入すると、新しいライセンスファイルを含む電子メールがデルから送信されます。このライセンスは、.xml 形式でお届けしています。ライセンスが zip 形式の場合、アップロードする前に XML ファイルのライセンスを抽出します。

### ライセンスのスタッキング

OMIVV のバージョン 2.1 から、アップロードされているライセンスの合計に、サポートされるホストの数を追加するために、標準のライセンスを複数スタックすることが可能となりました。評価ライセンスではスタックができません。スタックによって vCenter の数を増やすことができず、複数のアプライアンスを使用することが必要となります。

ライセンスのスタッキング機能にはいくつかの制限が存在します。既存の標準のライセンスが期限切れとなる前に新しいライセンスをアップロードした場合は、ライセンスがスタックされます。それ以外の場合、ライセンスの有効期限が切れた後で新しいライセンスをアップロードすると、新しいライセンスからのホストの数のみがサポートされます。すでにいくつかのライセンスがアップロードされている場合、サポートされるホストの数の合計は、最後にライセンスがアップロードされた時点で期限切れではないホストとの合計数となります。

### 期限切れのライセンス

サポート期間を経過したライセンス (通常、お買い上げの日付から 3~5 年) は、アップロードがブロックされます。アップロードされた後でライセンスの有効期限が切れた場合、既存のホストの機能は続行しますが、OMIVV の新バージョンへのアップグレードはブロックされます。

### ライセンスの交換

ご注文に関する問題があり、デルから交換用のライセンスを受け取った場合、代替ライセンスの資格 ID は以前のライセンスと同じになります。交換用ライセンスをアップロードする際、同じ資格 ID のライセンスが既にアップロードされていると、そのファイルは置き換えられます。

## 強制

### アプライアンスのアップデート

すべてのライセンスが失効している場合、アプライアンスは新しいバージョンへの更新を許可しません。アプライアンスをアップグレードしようとする前に、新しいライセンスを取得してアップロードします。

## 評価用ライセンス

使用可能なライセンスが失効すると、いくつかの主要分野は作業を停止し、エラーメッセージが表示されます。

## 接続プロファイルへのホストの追加

接続プロファイルにホストを追加しようとして、第 11 世代以降のライセンスの数がライセンス数を超過した場合、ホストを追加することはできません。